○議 事 日 程 (第 2 号)

平成28年12月20日 午前 9 時開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 一般質問
- 日程第 3 議案第102号 関ヶ原町職員の配偶者同行休業に関する条例の一部を改正する条例
について
- 日程第 4 議案第103号 関ヶ原町税条例の一部を改正する条例について
- 日程第 5 議案第104号 関ヶ原町保育所の設置及び管理に関する条例の全部を改正する条例
について
- 日程第 6 議案第105号 関ヶ原町留守家庭児童教室の設置等に関する条例の全部を改正する
条例について
- 日程第 7 議案第106号 関ヶ原町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定
める条例の制定について
- 日程第 8 議案第107号 関ヶ原町農業委員会の委員等の定数を定める条例の制定について
- 日程第 9 議案第108号 関ヶ原町国民健康保険条例の一部を改正する条例について
- 日程第10 議案第109号 関ヶ原町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例につ
いて
- 日程第11 議案第110号 国保関ヶ原診療所事業の設置等に関する条例の制定について
- 日程第12 議案第111号 国保関ヶ原診療所使用料及び手数料徴収条例の制定について
- 日程第13 議案第112号 国保関ヶ原診療所事業奨学金貸与条例の制定について
- 日程第14 議案第113号 関ヶ原町常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条
例について
- 日程第15 議案第114号 関ヶ原町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条
例について
- 日程第16 議案第115号 関ヶ原町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例につ
いて
- 日程第17 請願第 2 号 関ヶ原病院の診療所化に反対し現行88ベッドの存続を求める請願
- 日程第18 岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙について

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（9名）

1番	谷口輝男君	2番	室義光君
3番	子安健司君	4番	松井正樹君
5番	田中由紀子君	6番	中川武子君
7番	澤居久文君	8番	楠達男君
9番	川瀬方彦君		

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職・氏名

町長	西脇康世君	教育長	中川敏之君
監理官	吉田和司君	総務課長	澤頭義幸君
地域振興課長	高木久之郎君	会計管理者 兼 税務課長	藤田栄博君
住民課長	三宅芳浩君	産業建設課長	西村克郎君
水道環境課長	兒玉勝宏君	学校教育課長兼 社会教育課長	岩田英明君
病院事務局長	小林好一君	西消防署長	山本喜嗣君

○職務のため議場に出席した事務局職員の職・氏名

議会事務局長	吉森明博	書記	小林孝正
書記	岡村加奈子		

開議の宣告

○議長（澤居久文君） ただいまの出席議員は9名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（澤居久文君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員は、会議規則第123条の規定により、5番 田中由紀子君、6番 中川武子君を指名します。

日程第2 一般質問

○議長（澤居久文君） 日程第2、一般質問を行います。

ただいまから行いますが、あらかじめ御了承願いたいことがございますので、よろしくお願ひします。

一般質問につきましては、私が事前に見せていただきましたが、質問内容が各議員に同意と思われる質問がありますようですので、その質問においては、先に質問議員に答弁をされた場合は再度の答弁を省略いたしますので、よろしくお願ひいたします。

順次質問を許します。

3番 子安健司君。

[3番 子安健司君 一般質問]

○3番（子安健司君） それでは、議長のお許しをいただきましたので、私は、西脇町政の2期目についてということでお伺いをいたします。

先般行われました関ヶ原町長選挙におきまして、西脇町長は、対抗馬がなしという最高の形で当選をされました。心からお祝いを申し上げます。

立候補に当たり、西脇町長のいろいろな思いをお聞かせいただきましたが、選挙戦が1日で終わってしまったということもあり、ごく一部の方にしか伝わっていないのではないかと思います。

ここで、改めて西脇町政2期目への熱き思いを、細部については求めません、また再質問もいたしませんので、1期目4年間の反省も踏まえて、広く町民の皆様にお聞かせいただきますようお伺いをいたします。以上です。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） おはようございます。

それではお答えをさせていただきますが、先般行われました町長選挙におきましては無投票での再選となり、2期目の町政を担わせていただくことになりました。これも皆様方の期待の大ききのあらわれであり、責任の重さの重大さを痛感しているところでございます。身が引き締まるといったところでございます。皆様の期待の負託に応えるべく、誠心誠意取り組んでまいりますので、今後とも特段の御支援と御鞭撻をお願い申し上げます。

2期目の町政運営を担わせていただくに当たり、公約のほか、思いの一端を述べさせていただきます。

人口減少が進む我が町は、以前に比べると活気が乏しくなっていると感じられますが、自然と歴史が豊かな関ヶ原にもう一度活力を取り戻し、生き残れるまちづくりを目指していきたいと考えているところでございます。

現在、岐阜県と進めております古戦場ランドデザイン事業につきましては、古戦場史跡のブラッシュアップを推進するとともに、県が建設する、（仮称）ビジターセンターを訪れる歴史ファンに、関ヶ原合戦を学び楽しんでいただきたいと思っております。これによりまして、観光客等の交流人口を拡大し、おもてなしを通じて活気が出てくるようにしてまいりたいと考えております。

次に、急激な人口減少に対応できるまちづくりが課題であります。職住近接の企業誘致や定住対策を進め、県とのパイプ強化による施策運営を図りながら、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせる環境づくりに努めてまいります。また、空き家対策、中古住宅の再活用についても力を入れていきたいと考えているところでございます。

少子化が進む中、子供を産み育てやすい環境を整えるとともに、教育の充実を図り、子供たちがともに楽しく学べる教育環境の整備も進めていかなければならないと考えているところでございます。来年度から認定こども園化を図ることにしておりますが、放課後児童クラブの運営によりまして、働くお母さん方の支援が図られるものと考えております。

関ヶ原病院につきましては、4月から診療所として再出発をすることとなりましたが、有床診療所としても経営は厳しいものがあると想像されますが、現在の島崎院長を初め、スタッフの方々の頑張り町財政運営の努力によりまして、早期に安定経営ができるように努めてまいります。

また、後継者難になっております農林業につきましても、営農組合等の法人化等によりまして、地域で守る農業を中心に農地の活性化を図り、耕作放棄地の対策も考えていきたいと思っております。

このほかの施策につきましても、地方創生総合戦略の構想、また来年度策定予定の総合計画に基づきまして、取り組みを進めてまいりたいと思っております。何とか健全財政を維持する

ために、支出の抑制と収入の増につながる活動を強め、効果的な事業運営に努めていきたいと考えております。

1期目を顧みますと、病院の経営改革、人口減、少子化対策、観光振興、ヤギの飼育や有害鳥獣対策など、課題が山積している中でのスタートとなりましたが、皆様の御理解と御支援を得て、病院の診療所化や古戦場グランドデザイン事業のスタートなど、進展が見られた部分もございますけれども、人口減少社会に向けての雇用対策や定住、空き家対策など、まだまだ成果を上げなければならないというものもあると思っております。また、情報の収集や発信においても課題が残ったと思っているところでございます。

2期目におきましては、これらの課題を踏まえて、行動的に施策運営に努めてまいりたいと考えております。皆様方の御理解と御支援、また御鞭撻をお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

○議長（澤居久文君） これで、3番 子安健司君の一般質問を終わります。

続きまして、1番 谷口輝男君。

〔1番 谷口輝男君 一般質問〕

○1番（谷口輝男君） 1番 谷口です。

議長のお許しをいただきましたので、私は、1. 2期目の町政を担われるに当たっての公約について、今後の財政運営についてを質問いたします。

まずもって無投票での町長当選、まことにおめでとうございます。

1つ目に、2期目の町政を担われるに当たっての公約ですが、今回の町長選挙が無投票であったことにより、選挙公報の発行がありませんでした。当選決定後、事務所等で質問形式では思いを少しお話しされましたが、2期目の町政を担うに当たっての公約と個別課題については、まだ誰も聞いていないと思いますし、興味があると思います。公約、また個別課題として掲げられた内容についてお伺いいたします。

2つ目に、今後の財政運営については、もう既に29年度の予算編成が始まっていると思いますが、今年度は病院の改革もあって多額の費用が必要となり、今後も課題が山積する中、諸事業を推進していくための財源がどれだけ必要なかわからない状況であります。来年度以降の財政運営について、現在置かれている厳しい財政状況をどのように思っておられるのかお伺いいたします。以上です。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） お答えをさせていただきますが、2期目の公約についてでございますが、先ほどの3番議員の質問において答弁させていただいておりますので、省略をさせていただきますのでよろしくお伺いいたします。

2番目の今後の財政運営についてでございますが、人口減少、少子・高齢化が進み、町の収入の柱である町税や地方交付税の減少が見込まれる中で、病院改革や古戦場グランドデザイン事業、公共施設の老朽化対策、社会保障関連経費の自然増など、今後より一層厳しい財政状況になることが想定されております。

このような山積する懸案事項に対応していくためには、さらなる行財政改革が必要であると考えております。限られた収入の中で諸事業を推進するためには、事業の必要性、政策効果などを判断し、縮小あるいは廃止、重点化など、メリ張りのきいた財政運営をしていく必要があると考えておるところでございます。

また、現在、町が進むべき方向性を定める総合計画というものはございません。既に策定済みの関ヶ原町まち・ひと・しごと創生総合戦略や、現在策定中の公共施設等総合管理計画との整合性を図りながら、新年度におきまして町の総合計画を策定させていただき、今後の町政の道筋を明らかにし、健全財政に努めてまいりたいと考えているところでございます。以上です。

○議長（澤居久文君） 再質問を許します。

〔1番議員挙手〕

谷口輝男君。

○1番（谷口輝男君） 再質問を行わせていただきます。

公約に関しまして、先ほど反省を踏まえてということで子安議員と質問が重複しており、また1期目の反省を踏まえて熱き思いをお聞かせいただいたわけでありませけれども、9月にも楠議員が4年間を問うとして質問され、再三にわたって質問して申しわけありませんが、そのときに町長は達成感がないと言われておりました。

1期目の公約として掲げたのは、関ヶ原病院の経営改善、行政改革による健全財政の維持、少子・高齢化の社会に対応した福祉の充実、土地の保全・活用、農地の荒廃防止、教育環境の整備・充実の5項目で、また個別課題として、ヤギの飼育環境の改善と新製品の開発、平井水源の整備推進、商工業の活性化等に取り組んでいきますと町広報の新年の挨拶をしておられます。

いろんな課題に対して、一朝一夕にできるものではありませんともありましたが、公約に掲げられた中で、関ヶ原病院については医師の確保と赤字脱却を目指すとのことでしたが、最終的には規模縮小の有床診療所に、健全財政に関しましては維持できていないと思われま。

また、企業誘致に関しても難しい状況でありますと一般質問の中で答えておられます。個別課題として上げられたヤギ事業に関しては取りやめ、平井水源の整備推進も余り進んでおりません。申しわけないですが、私といたしましては、前進していったのではなく後退していったと思われま。町長の率直な思いをお伺いいたします。

また、そこで、先ほど2期目の公約を掲げていただきましたが、グランドデザインの事業の

推進、これは県が一生懸命やっただいて、ほとんど県の事業だと思いますけれども、県と共同でやっているということで、史跡整備とブランドを生かした観光産業についてと言われましたけど、グランドデザイン事業の推進につきましては、関ヶ原町の財政状況を説明し、当初の事業が始まった段階の約束事からどんどん膨れ上がっていることもあり、今後、将来に向けて県と推進事業、今後の施設管理、おのおの場合の協定書を交わしておくべきだと思いますが、どうでしょうか、伺います。

2番目に、生き残れるまちづくりと言われました。トップセールスマンとしていろいろ言われておりますけれども、企業誘致や県とのパイプ強化に努めてと言われました。これは、今までにやっていなければならないことではないんですか。どうですか、伺います。

それから次に、財政運営について、先ほど公約の中に、これはなかったんですけども、喫緊の課題で最初に財政健全化を上げてありますが、病院、グランドデザイン、人口とかは言われました。大事なことなのに真っ先に上げなかったのはなぜか、伺います。

関連しておると思いますけれども、いろんな事業を言われた中で。そこでちょっと説明をしますと、町長当選時の新聞記事の中にも書いてありましたが、町の預金を示す財政調整基金は本年度末に2億5,000万円まで落ち込み、財政の健全化も待ったなしだ。人口減少にも歯どめがかからない。町の厳しい状況をいかに打開するか手腕が問われると掲載されました。

事実、財政調整基金につきましては、平成25年度には6億円余の基金残高であったのが、平成28年度末、予算上は2億円になる予定であります。特定目的基金は特定の目的に使うものでありまして、目的以外には使えませんが、基金全体でも平成25年度末には20億円あったのが12億円になりつつあります。

こんな状況の中、診療所化に伴う費用が今年度末までまだ必要であります。来年度以降も、病院自体の起債の償還、リース料等、持ち出しは2億円を下らないと思います。来年度に関しては、退職金の関係もあります。

町の標準財政規模が28億円の当町の一般会計から他会計への繰出金は10億円余になります。その上、平成28年度末残高42億円の起債償還は、平成30年度ぐらいに僕はピークが来ると思います。さらには、グランドデザイン事業に係る費用も考えなくてはなりません。

もう一つだけ私が心配していることで申し上げたいのは、公共施設です。体育館、公民館、この2つだけでも、耐震をやろうと思うと3億円以上はかかると聞いております。これらも耐震なのか建てかえなのか、待ったなしです。

いろいろ上げましたが、町長が本当に財政が厳しいと認識しているようにはなぜか思えないんですけども、2期目を任された責任の重大さを痛感していると先ほど言われました。それを言ってみえますが、この厳しい財政状況を把握していただいた上で、いま一度お考えをお伺いいたします。

また、本来の町の政はないがしろになっていないのか。本来の関ヶ原町民に対する福祉のサービスは維持できるのかどうか、どう思われているのか伺います。以上です。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） それではお答えをさせていただきますが、質問が多岐にわたってありましたので、若干抜ける部分があるかと思えます。その点、またお知らせいただければと思っております。

まず最初に、達成感がないと前に言ったというようなことですが、これにつきましては病院改革についての質問であったというふうに思っております。病院改革、何とか129床体制の中で維持・改革ができないかという思いで取り組みをさせていただきましたが、3年間かかってもやはり体制での改革というものは非常に厳しく、できなかったと。その結果として、病院の縮小に至るというようなことですが、私が町長就任時に思い描いていた病院の現体制の中での改革というものを達成できなかったという意味で、達成感がなかったというふうに申し上げたところでございます。

また、病院につきましては、当時から以前に比べてドクターが不足しておったと。そのためにオペもできないということで、オペができないということはそのままやはり患者の減につながるというようなことから、医師の確保を何とか図りたいというふうに県、大学病院等にもお願いに再三行ったところでございます。そういったことをしながらも、やはり医師の確保はできず、また救急等の対応も非常に厳しい状況の中で、成績が上がっていかなかったというのが現状でございます。

そういった中で、累積赤字もどんどん膨らんでくるというような状況で、今後どうするかという課題をする中で、スタッフの減という形の中で88床に病院がなってしまったと。それによりまして試算をしたところ、今までの町からの繰り入れだけではとても運営ができていけないというようなことから、どうしてもその分を何とかしなければいけないということで、先般、縮小というような方向性に持っていかせていただいたところでございます。

そういった意味で、病院については、当初の思い描いていた改革の方向とは異なった形となりましたが、それでも今後、大きな赤字という面については、若干の赤字の補填というものは残るという想定でございますが、大きく出していくということはなくなるのではないかとこのように思っているところでございます。

そういったことも含めて、病院へ繰り出し、また他の起債事業等への償還等々、また特別会計への負担、こういったものが町の財政上していかなければならないという状況でございますが、税収におきましては人口減少、また社会景気の動向等によりまして、税収が余り上がってこなかったという中で、基金等の目減り分が発生しているという状況でございます。収入が少

ない中で最小限の事業というものを維持しなければならないという前提の中でやっておりますと、何とかクリアをしていくために基金等にも若干食い込ませていただいたところがございます。

そういった面につきまして、基金が先細りをしてしまうということを承知の上でやった部分もございますが、これが続けられるかという、非常に厳しい状況であるというのは当然のことでございます。今年度におきましても、今、編成作業をやらせていただいておりますが、担当部局の間におきましても節減に努めながら編成をさせていただき、何とかちょっとでも負担が少ない状況の中で運営をさせていただくというふうにしていきたいと思っております。

そんな中で、昨年、1期の事業、大きな成果が出るかと言われると、形として残っているのは、先ほども御指摘がありましたヤギ事業の赤字事業を廃止したと、それから病院事業の改革等々、あと有害鳥獣対策等の防護策等々をやらせていただいたところがございますが、大きな形になるものは、財政が乏しいという状況の中で、なかなか大きく展開ができなかったというのが事実でございます。そんな中で、私なりに努力をさせていただいたという思いでおるところでございます。

また、平井水源にも触れられましたけれども、平井水源につきましては工事費が非常にかかるということで、一気にやるには、先ほどの御指摘ではございませんけれども、町の負担等々を考えますと、すぐに財源が枯渇してしまうというようなことから、小出しにしながら継続をさせていただいているというところがございます。

また、ランドデザインにつきましては、確かに当初は県との約束の中で、町財政が負担できる金額の範囲はこれぐらいでお願いしたいというようなことを申し上げましたが、今は県との協議の中で、通常の史跡整備だけじゃなしに、当初の想定以上の部分が県からも予算をつけていただいたということで、この際やらなければ、今後、将来的には非常に厳しい財源の中で実施を継続していくのは難しいという判断のもとでやらせていただいております。県とのランドデザイン事業は5年間の事業という中で、この期間である程度の整備をしなければならないという前提のもとで、やむを得ないという措置だというふうに思っているところがございます。

また、施設のほうの管理につきましても、県が今策定中のビジターセンター、これにつきましては協議を重ねているところがございますけれども、まだ県としての運営・管理の方法が定まっていないということでございますので、そういう中で今後の課題というふうに思っているところがございます。御指摘のように、協定書等を取り交わすということはしていく必要があるというふうに思っているところがございます。

それから、県とのパイプでございますけれども、これは今までも大垣の地域事務所等にもお

伺いしながら、パイプの強化、また事務の推進というものをお願いしておりましたけれども、やはり事細かい事業の中で、県庁のほうとの連携、またお願い事、こういったものについてはもっともっとやっていく必要があるというふうに判断をいたしておるところでございます、今後もっと足しげく通う必要があるというふうに思っているところでございます。

それから行財政改革の件でございますが、先ほどもお話しさせていただきましたけれども、厳しいという話の中で、じゃあ何をやれるのかと、また何を処分していくのかということは、本当に考えていかなきゃならないという状況でございます。

いろんな事業を推進するにも、やはり財源がなければできないという中で、その中で取捨選択、また時期の決定、こういったものを考えたときに、今の状態の中で事業を実施したいけれども財源的に難しいということで、先送りをせざるを得ないというものもございますし、また建物等につきましても、老朽化していて対策が必要だという部分がございます。そういったものにつきましても、耐震補強をしてしばらくもたせるのがいいのかとか、改築をしたほうがいいのかということ判断せざるを得ないという状況でございますが、さきの熊本地震のときにおける被害状況、また耐震対策をした庁舎が壊れてしまって、もう改築をせざるを得ないと、そんな状況を見たときに、今、関ヶ原町の中で改築をしたほうが耐震補強をするよりもいいんじゃないかというような判断をしておりますけれども、今、たちまちにそれができる状況にないというのは、先ほど来申し上げてきているところでございます。

そんなことから、この先において、財政状況を鑑みながら改築に向けて進めさせていただけたらというふうに思っているところでございます。地盤的にはかたい地盤の上でございますので、液状化等が起きるような軟弱な地盤の上ではないということで、その面について期待をしながら、いましばらく皆さん方に御辛抱をお願いいたしたいというふうに思っているところでございます。

それから財源のことでございますが、御指摘のように、今、町の予算運営をする中で、どうしても地方税が減少し、交付税につきましても伸び悩みをしているという中で、返すものを返さなければいけませんし、事業もやらなければいけないという状況でございますので、そういった中で持ち出し分が多くなっている状況でございますが、これは何とか食いとめたいというふうに思いますけれども、その中で、今、町が実施している事業の中で経常経費的に見ると、もう9割以上のということになっておりまして、余り財源的に余裕がない、そういう状況でございますし、出さなければいけないという部分が多いと、いわゆる普通建設事業関係が少ないということでございます。

その中で、どうしても負担をしていかなければならない部分については、これはやむを得ない部分があるかというふうに思いますけれども、何とか普通事業等々において、削れるところは削らせていただくという形の中で運営していかなければならないというふうに思っている

ところでございます。

そんな中でございますけれども、町の政と言われましたけれども、いろんな施策を推進する中で、十分にはできないにいたしましても、住んでいる皆様方が関ヶ原町に住んでよかったと言っただけのような、そんなまちづくりをしていかなければならないという前提でございますので、そういった意味で福祉の推進、また少子化対策、高齢化対策、こういったところにつきましても、国の施策・方針にも従いながら進めさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

財政状況の厳しい中で、全て皆さん方の御期待どおりにできないというのは十分御理解もいただけることというふうに思っておりますので、そこら辺につきましてもよろしく御理解を賜りながら、今後の町運営に努めてまいりたいというふうに思っているところでございます。以上です。

○議長（澤居久文君） 再々質問を許します。

〔1 番議員挙手〕

谷口輝男君。

○1 番（谷口輝男君） 財政の関係ですけれども、今言われましたけれども、今後、経常的な支出である固定経費を削るようなことはほとんどできないかと思われま。不要不急、また効率の悪いもの等を中心に事業の縮小を行い、具体的な施策や事業を実施するためにも、しっかりと方向づけや道筋をつけていくことが大切だと思います。

総合計画については作成すると言っておられますが、実施計画等、具体的に今どこまで進んでいるのか、内容についてはどうなのかだけお伺いいたします。よろしくをお願いします。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） 事業運営につきましては、御指摘のとおり、経常経費率が非常に高いという中で、新たな事業展開を行っていくというのは、それだけで単独で起こすというのは非常に無理な状態だというのは御指摘のとおりでございます。

前から言っているように、スクラップ・アンド・ビルドと、何かをやめなければ新たな事業は多分できないだろうというようなこともありますので、そういったことで、今までの事業の見直しも含めて取り組みをさせていただいて、今後新しい事業を起こすような、そんな取り組み姿勢とさせていただきたいというふうに思っておりますし、やはり事業運営につきましても、効率的な運営というものは絶対必要だというふうに思っております。ただ単に計画をつかってやれじゃなしに、細部にわたってどういう形で進めるかということも検討させていただきながら、今後の取り組みとさせていただきたいと思っているところでございます。

また、総合計画の進捗状況でございますが、先ほどの3 番議員へのお答えにもさせていただ

きましたけれども、既にできております地方創生関係の総合戦略、これがあります。また、今、総務課のほうでつくっております計画等々、そういったものが完成し、またその後に総合計画を策定するというので、来年度、今現在ある部分を参考にしながら、整合性をとりながら進めていくという段階であります。総合計画そのものにつきましては、来年度の予算化という中で取り組みをさせていただくということでございますので、御理解を賜りたいと思っております。

○議長（澤居久文君） これで、1番 谷口輝男君の一般質問を終わります。

続きまして、9番 川瀬方彦君。

〔9番 川瀬方彦君 一般質問〕

○9番（川瀬方彦君） 議長のお許しをいただきましたので、私は、西脇町政2期目に向かって、課題と組織づくりについて質問させていただきます。

先日行われました町長選挙において、2期目の当選、まことにおめでとうございます。

これからの町政のかじ取りを町民の方々より託されたわけではありますが、町が抱える問題は山積しています。財政問題、病院問題、人口減少問題、空き家対策問題、防災対策など、いろいろあると思います。

問題を解決するには、課題の明確化が必要です。さらに、その課題を解決するためには、一つ一つの目標に向かっていく組織づくりが必要です。

そこで伺います。

町長は、これからの関ヶ原町をどのような形で運営を考えられていますか。また、課題を含め、組織づくりをどのように考えておられるのか、西脇町長の2期目のビジョンをお答えください。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） お答えをさせていただきますが、まず1点目の運営につきまして、先ほどの3番議員の質問における答弁内容と重複すると思いますので、答弁は省略させていただきますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

2番目の件でございますが、関ヶ原町の今後を考えたときに、課題の克服ができていくかどうかは、町長である私の能力、施策運営にかかってくるというふうに思っております。

また、行政機能が円滑に機能することが成果を上げていく上で必要でありますので、限られた職員の数の中ですが、山積する個々の課題に対して対応していける体制づくり・組織づくりが必要と考えているところでございます。

職員が連携し、協力し合っていかなければ、十分な成果が期待できません。課内の連携のみならず、プロジェクトチームをつくって対応していくことも必要であろうと思っております。

でございます。

事業の遂行においては、その目的とするところを共有し、密接な事務連携を図ることが重要でありますので、内部組織の一部再編も必要であろうということを考えております。現時点では、その具体的な再編成案というのはお示しすることはできませんけれども、今後において検討させていただき、新年度に体制をしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（澤居久文君） 再質問を許します。

〔9番議員挙手〕

川瀬方彦君。

○9番（川瀬方彦君） まず、2期目の思いということで、3番議員に先ほど答弁されましていろいろ課題・問題点から、課題を今見られているのかなあというふうには思っておりますが、この課題という部分は今述べられただけなんですよね。具体的なそれを行動するというに関し、内容が伴っていないように私は感じられました。

これからの4年間、この町にとっては大変な時期だと私は認識しております。この町をよくしたいというのは、町長を初め我々も同じであります。だからこそトップセールスマンとして、やはり行動力というのが必要になってきます。

少し厳しいことを言います。

町長、お世話になった方にお礼が言えない。感謝の心が余り見受けられない。今までの1期4年間の西脇町長を、私も議員という立場にならせていただいて同じ期間を歩んでまいりました。やはりトップセールスマンとしての行動力が、私は弱いように思います。決断力、責任感、余り強く感じられない部分を見受けられたときもあります。

物事が起きてから動くのでは遅過ぎるのです。受け身ではだめです。積極的に考え、行動することが大切だと思います。このことが、この町をよくする第一歩だと私は考えております。

1期目と同じ考えで行動しては、改革が進みません。先ほどの2期目への思いという部分で町長が述べられましたけど、進めるためにはどのように行動するのが大切だと思います。一つの例を挙げます。

今まで、西脇町長が就任されて4年間、前町長より引き継いだ時点で、財政調整基金プラス減債基金は合計で約12億円ありました。これが平成28年度末には、あくまでも予定ではありますが、5億3,400万円になります。

この4年間でいろいろあったと思います。でも、財政調整基金と減債基金のほうが約6億円、取り崩しをされてみえます。今までと同じような行動や考え方でこれからの4年間を過ごされてしまいますと、基金がなくなります。

一般家庭における基金というのは、貯金でございます。先ほども、財政が厳しい、動かなければならない、やらなければならない、この課題が一つ一つわかっているわけですから、この

課題をどのように行動するのか考えなければなりません。

やはりこの課題を克服していくためには組織づくりが大切であります。先ほども1番議員への答弁の中にありました役場内におけるプロジェクトチームの設置、危機管理室でもいいです。これは、今まで、役場内の職員間であっても意思統一ができていない部分があったかと私は思っています。行政の悪い癖です、縦割りになっているんです。

先ほど言いましたプロジェクトチームの設置、これは各課をまたいで専任として行える特別チームの設立を考えられたほうがいいと思いますので、町長のお考えをお聞きします。

さらに、町長の仕事は多岐にわたります。そこで、新しい風を取り入れるために、内部からではなく外部から新しい考え方を導入する、そのためにも副町長を置いていただきたい。

国の政策の中に、地方創生人材支援制度というのがあります。町の財政も厳しいわけですから、国が人材支援の制度をもって支援しますよということを言っているわけです。こういうことを活用していただいて、国及び県からの新しい風を入れていただき、課題を一つ一つ解決されてはいかがかと私は思います。

今まで以上の考え方、行動力、決断力が、今この町には求められています。全ての事業に対し、全員で取り組むためにも、改革が必要であると私は思います。この関ヶ原町をよくしたいというみんなの思いの中での再質問としますので、町長のお考えをお伺いします。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） お答えをさせていただきます。

1期4年という中で、皆様方が見られた私の指摘すべき事項をお知らせいただきました。そのお言葉を十分にかみしめながら、次の2期目に向かっていきたいというふうに思っております。皆さん方が私の行動、また施策運営に対して、まだまだ求められるものが非常に多いということで反省をしながら、2期目でこういったものがクリアできるような、そういうふうにしていかなければ、今後のまちづくり、また町政運営というものは円滑にいかないというふうに思うところでございます。

お金のほうの部分につきましては、先ほどの1番議員への答弁でも申し上げたところでございますけれども、本当に課題が多い中で何をどうやっていくかと。全てに手を出してはできないというのも現状でございますので、職員の中で組織改正を図りながら、また職員と意思統一を図りながら、どうやってやっていくのがいいのかということも協議しながら進めさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

課題につきましては、本当にどういう解決がいいのか、私の最終的には決断力ですけれども、決断力に至るまでのプロセス、こういったものも必要でございます。町内の方、また職員、こういった方々と協議を密にして決断をしていく体制をとっていかなければならないというふう

に思っております。

そういった意味で、今御提案がございました外部から副町長を導入したらどうかということにつきましては、今、検討をさせていただいております、前向きに考えたいということで今考えております。

そういった中で、地方創生人材支援制度といったもの、またことしも県のほうからも県との人事交流、こういったものもできないかというようなお話もございました。ただ、県のほうとの話し合いの中では、今年度はちょっと見送らせていただきましたけれども、今後はそういった中で、職員の交流による育成という部分につきましても図っていく必要が出てくるのではないかとこのように思っているところでございます。

いずれにいたしましても、自分の担当する部分を担当していればいいんだというんじやなしに、みんなが町全体のことを考える、そういった体制づくりをしていかなければならないということは御指摘のとおりでございますので、そういった意味におきまして、今後、取り組みを進めさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

プロジェクトにつきましては、これも先ほどの質問にもお答えさせていただいておりますけれども、やはり課の再編というものも前提に考えなければいけないということと、プロジェクトにつきましては、課題というものを整理しながら必要に応じて設置をするということになると思っておりますので、担当がどこまでやるというんじやなしに、課をまたぐ形の中でやっていきたいというふうに思っております。

ただ、今までのプロジェクトというのは、例えば各課から係長を1人出せよというような部分もございましたけど、やはり事業内容等々に鑑みまして、それぞれの担当職員であるとかを個別にチームに入れるというようなことも考えていかなければならないというふうに思っているところでございます。

○議長（澤居久文君） 再々質問を許します。

〔9番議員挙手〕

川瀬方彦君。

○9番（川瀬方彦君） 大変厳しい時期でございます。頑張ってやっていかなきゃいけないという部分は再認識されてみえると思いますけど、まずプロジェクトチームに関して、必要に応じてとはいつなんですか、今じゃないんですか、必要なのは。

私は、今すぐにでも組織編成はできると思っています。来年4月、病院の縮小に向けて、人員がある程度余剰する部分もあるというふうに思っております。

必要に応じて、その都度その都度では、今までと余り変わらないんです。改革を進めなきゃいけないというのであれば、特別のプロジェクトチーム、危機管理室でも何でもいいです、一つの課としてそれを設け、どんな問題に関しても課をまたいでトータルで話をしていきたい。

なぜなら、先ほど総合計画、地方創生の部分で今策定された、これは地域振興課のほうで策定をされたと思います。これからは総務課でやる。ランドデザイン事業でもそうですよね、どうしても課をまたいでしまいます。地域振興課がやる部分、それと社会教育課のほうでやってもらう部分。これは何々課、そうじゃないんです、もうまとめてほしいんです。まとめて考えないとだめなんです。時間がないんです。いつ必要なんですか、今ではないんですか。これが1つ目。

副町長を置く、いつまでに検討するんですか。私は、やれることは速やかに動いていただくことが、この町をよりよく住みやすいまちづくり、これにつながっていくと思っております。

最後に3点目、やはり中・長期ビジョンがどうしても必要です。財政がこれだけ厳しいわけですから、急に単年度で収益が変わるということ、急に税収が上がるということもないと思います。そのためには、やはり中・長期ビジョン、計画が必要です。

先ほど、総合計画を来年やりますと答弁されましたけど、これを町長がよく言われるP D C Aサイクルに当てはめるんだったら、これがPなんです。総合計画がPなんです。どうやって動くのか。来年度からでは遅いんです、今もう動いていなきや。

私は今回、2期目に当たって、西脇町政、やはり未来ある子供たちのために、先ほど町長も言われましたけど、関ヶ原町に住んでよかったと思えるまちづくりに向けてどうやって進めていくのか、ここがポイントです。

ですので、先ほど言いましたプロジェクトチーム、必要なのはいつですか。副町長を検討する、いつまでに検討するのですか。総合計画に関しても、中・長期ビジョンを入れ、つくっていただきたい。この3点、子供たちに向かって、町民の皆さんに向かって、町長の今考えてみえることをお答えください。

○議長（澤居久文君） 答弁を許します。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） プロジェクトにつきましても、今すぐに必要ではないかという御指摘でございます。

確かにある部分においては必要な部分もあろうかと思いますが、先ほど来申し上げているように、来年度に総合計画をつくりませんが、その前に、今現在既に策定済みのまち・ひと・しごと創生の総合戦略、また施設等の総合管理計画、こういった既存の計画の中で動けるものは動かしていただいているという状況でございます。総合計画ができなければ何も動かないじゃないしに、今既に策定済みの計画、こういった中で動けるものは動かさせていただきたいというふうに思っておりますし、そのように現在動いていると。ただ、施策はしましても、成果が順次上がってくるというふうに思っているところでございますので、その点は御理解をいただきたいと思います。

そういった意味で、プロジェクトにつきましても、御指摘の内容等、今やらなければならない部分、こういったものにつきましても、早急に必要だという部分についてはやりますが、4月の新年度に向けて、組織改正を今検討中でございますので、そういった中で具体的に進めさせていただきたいと思っております。

また、次の副町長につきましても、新年度にはそういう体制をとりたいということで、今、調整、また進めさせていただいております。自分なりにどうするのが、今御指摘があったような形で、町に新たな視点から物考えることができるか等々を考えながら、新年度にはそういう体制をとりたいというふうに思っているところでございます。

それから中・長期ビジョン、これは先ほど来申し上げているとおりでございまして、総合計画の中で当然に組み立てていくべきものであろうというふうに思っておりますが、総合戦略といったものの中でやっていけるという部分でございますので、今、一つ一つやらせていただきたいというふうに思っております。

ただ、計画の中で全てがとり行われるかという点、先ほど来言っているように、財政的な問題がありますので、その中で優先順位はきちっとつけなければなりません。今行動するのも大事ですけども、きちっとした計画の中で将来像を描き切るといことも非常に重要なことであると思っておりますので、その点は御理解を賜りたいと思っております。以上です。

[9 番議員挙手]

○9番（川瀬方彦君） 補足でいいですか。

○議長（澤居久文君） どうぞ。

○9番（川瀬方彦君） 副町長におけるという部分の、プロジェクトもそうです、必要なのは今じゃないんですか。今考えて行動しなきゃならないという認識はありますか、ありませんか、ここだけでいいです。

○議長（澤居久文君） 西脇町長。

○町長（西脇康世君） 先ほども申し上げたとおり、人事に関しては決めてすぐにできるものではないと思っております。それなりに人の選考、また今組織に見えられる方ですと相手方との交渉、そういったことがございます。そういった意味で、今、私は既にもう動いているという状況でございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（澤居久文君） 動いているということで御理解ください。

ここで暫時休憩をいたします。10分まで。

休憩 午前10時00分

再開 午前10時10分

○議長（澤居久文君） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を行います。

5番 田中由紀子君。

〔5番 田中由紀子君 一般質問〕

○5番（田中由紀子君） 議長の指名を受けましたので、3点について一般質問をさせていただきます。

1つ目は関ヶ原病院の診療所化に伴う問題について、2つ目は旧may!may!の活用について、3点目は旧働く婦人の家の1階に洋式トイレを、以上3点を質問させていただきます。

1番、関ヶ原病院の診療所化に伴う問題について。

関ヶ原病院の有床診療所化に伴って、この間明らかになってきた問題について、2つの点を質問します。

1点目は、医療福祉相談室が廃止されることです。

相談室は、患者や家族の病気やけがなどに関連して起こるさまざまな生活上の問題について相談を受け、福祉制度につなげたり、退院後の生活をともに考えたり、治療を受ける前でも透析などの相談に乗ってくださっていました。廃止されると、患者はどこに相談すればいいのでしょうか。

入院されている方の退院に当たって、ひとり暮らしかどうかや家族状況から、ケアマネジャーからすぐの退院は難しいと判断された場合でも、相談員の方がドクターにかけ合って対応されています。医療と介護の橋渡しの役目である相談員がなくなることによって、ケアマネジャーの対応として、医療相談や退院後の生活相談は誰に持ちかければいいのでしょうか。

厚生労働省は、住みなれた地域で医療から介護、生活支援までを包括的に確保するよう地域包括ケアシステムをつくりなさいとしています。そして、この間の各地の取り組みの中で、医療と介護のいろいろな職種の間相互の理解や情報の共有ができておらず、円滑に連携がされていないという課題が出てきました。

こういう背景のもとで、地域で支援を行っていく事業の中に在宅医療・介護連携の推進事業等が新たに加えられ、平成30年4月には実施することとしています。幾つかあるこの事業項目の中に、在宅医療・介護連携に関する相談支援という項目があり、内容は、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの相談や受け付けを行う。必要に応じて退院の際の地域の医療関係者と介護関係者の連携の調整や、利用者、患者または家族の要望を踏まえた医療機関、介護事業者相互の紹介を行うとされています。まさしく医療福祉相談室が行っている内容ではないでしょうか。

今後は、地域の在宅医療を行っている医療機関や郡医師会とも連携が必要となってきますが、現在既につながっているネットワークを切らさずに、さらに発展させていけばいいものと考えます。よって、病院の医療福祉相談室を町の地域包括ケアシステムとして位置づけ、介護事業の中で継続することが必要ではないでしょうか、伺います。

2点目は、閉鎖予定の病棟をどうするかという問題です。

まだまだ使える施設を閉鎖すれば、廃屋になってしまいます。北棟は老人福祉センターの機能を移してはどうか、南病棟は何らかの利用または利用者を探すなどを考えるべきではないでしょうか。

2番目、旧m a y ! m a y ! の活用について。

老人福祉センターを取り壊す予定ですが、隣の旧m a y ! m a y ! は平成22年度に約2,200万円の事業費を使って改修したばかりで、まだ6年しかたっておりません。大変もったいないと思います。今ある資源は活用することを念頭に周辺整備を検討されたいが、伺います。

3番、旧働く婦人の家1階に洋式トイレを。

旧働く婦人の家の1階に洋式トイレを要望しましたが、町長は公民館の洋式トイレを活用してほしいとの答弁でした。しかし、公民館につながる通路には階段があり、足の悪い人には不便です。高齢者の方の利用も多く、せめて一つぐらいは洋式トイレに改修すべきではないでしょうか、伺います。

以上、答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） それでは、お答えをさせていただきます。

病院の医療福祉相談室を介護事業の中で継続することが必要でないかということでございますが、現在の病院事業での医療相談は、診療所に縮小するため、そのまま移行することは困難であると思っておりますが、診療所では相談室での業務の洗い出しを行い、内容を精査して、残る看護職員で仕事の分担を行い、対応をしていくことになると思っております。

今後は、やすらぎの地域包括センターや在宅介護支援センター、訪問看護ステーション等との連携を密にし、平成29年度以降に同じ組織の中で展開できるように組織改革を行っていく予定であります。介護事業の中での取り組みとなるかはわかりませんが、相談連携ができるようにしていきたいと思っております。

診療所での入院は、現在の地域包括病棟や障害者病棟での入院とは根本的に異なり、一般入院であるため、長期の入院が困難でございます。今後、診療所として、かかりつけの患者さんやがん末期の患者さんには訪問診療を積極的に展開していき、患者さんの急変時には宅直医が対応をし、入院できる体制をとりたいと思っております。

このようなことから、医療福祉相談の内容についても変わってくるものと思われませんが、住みなれた地域で医療から介護、生活支援まで確保できるように、今後少しずつ地域包括ケアシステムをつくり上げていこうと考えているところでございます。

次に、閉鎖予定の病棟問題でございますが、南病棟につきましては、熱源が現在のボイラー

からの供給となっております、利用する場合にはこのボイラー室を老朽化により建てかえる必要がございます。また、部屋面積、廊下幅が狭いために、特別養護老人ホームの基準を満たさず、そういった転換もできない状況でございます。そのようなことから閉鎖することとしておりまして、跡の利用につきましては、どのような利用方法があるか、また皆さん方からアイデアを出していただき、今後検討していきたいと思っております。

北棟につきましては、今、利用の方法につきまして、社会福祉協議会等との利用、こういったものを検討させていただいております。

次に、m a y ! m a y ! の活用についてでございますが、現在、老人福祉センターを取り壊し、その跡地に岐阜県の事業として（仮称）関ヶ原古戦場ビジターセンターを建設する計画でございます。御指摘の建物につきましては、一連の建物でありますので、旧m a y ! m a y ! につきましても取り壊す計画でございます。

整備されますビジターセンターが、関ヶ原の戦いを忠実に伝え、史跡めぐりの出発点となり、周辺景観と調和するような建物になるよう県と調整をしてみたいと思っております。御理解をいただきたいと思っております。

それから、働く婦人の家の洋式トイレの問題でございますが、旧働く婦人の家におきましては、今年度から公民館の別館としてこれまでどおり御利用をいただいております。

トイレの洋式化でございますが、教育委員会関係施設において、多くの施設で洋式化が進んでいないのが現状でございます。御不便をおかけしている部分があるかと思っておりますが、現時点では洋式トイレへの改修は考えておりませんが、今後も各施設の利用状況や改修の優先順位を見きわめながら判断をさせていただきたいというふうに考えているところでございますので、よろしく願いいたします。

○議長（澤居久文君） 再質問を許します。

〔5番議員挙手〕

5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 町長は、私がいろんなところで相談室をどうするんだと言ったときに、必ず連携を密にするという言葉が使われます。

しかし、なぜ地域包括ケアシステムの中に地域医療・介護連携事業というのが特別に追加されたかといいますと、先進事業を行っている幾つかの地域の中で、結局ケアマネさん、地域包括支援センターの方と医療を行う方とのやっぱり相互理解がなかなか難しいという結果だったんですね。なので、国は、その連携をもっと密にしていかないとこのシステムは成り立たないんじゃないかということから、いわゆる介護のこともよくわかっていて、医療のこともよくわかっていて、福祉のこともよくわかっていて、そういう人を相談者に置きなさいよというふうに言っているんですね。

実際に、私も医療福祉相談室の方と色々なやりとりをしてきましたけれども、例えば透析を受けたいときに関ヶ原病院にあきがあるかどうかという問題や、大垣市民病院で透析を受けるための手術をした後、大垣市民病院のよろず相談に言ってもらえれば、関ヶ原病院の相談室にすぐ連絡が入るのでこちらも準備しますよというふうに言ってくださったりとか、かなり患者さんの安心を担保してもらっていました。

あと、ひとり暮らしの方が倒れられて、入院されて、もう治療は終わったんだけど、このまま退院されてもひとり暮らしでちょっと危ないなあというときに、ケアマネさんと相談員の方が相談されて、もうちょっとやっぱりリハビリをやったほうがいいということでドクターにかけ合ってもらったりとか、患者さんにとっても安心できるし、ケアマネさんにとっても安心できるという存在だったんですね。

あと、医療費を払うのが困難な人については、役場に行っているような手続を援助してもらったりとか、そういう未払い金の発生を抑えるという役割もやってみえました。私は、こういうことができるのは、やっぱり医療もわかり、介護もわかる人だからだというふうに思っているし、関ヶ原町が顔の見える町という強みもあると思います。

先ほど同じ組織にするとおっしゃいましたが、これからは関ヶ原病院だけではなくて、地域のいろんなクリニックや浅野医院さんとか、そういうところとも常に連携をとりながらやっていきなさいよというふうになっておりますので、果たしてそれで対応できるのかどうか、大変疑問に思います。

それで、私はまず町長に伺いたいと思うんですが、これまで医療福祉相談室が果たしてきた役割や現在つくられている介護や福祉、医療とのネットワーク、そういうことについてまず御存じかどうか伺いたいと思いますし、もし御存じであれば、どう評価されているのかということを知りたいと思います。

その上で、私は、やっぱりこれまで培ってきた水準を下げないで、引き続き関ヶ原町のために、患者さんのために、町民のために働いていただくという必要があるのではないかとこのように思っておりますが、そういう認識があるのかどうか伺いたいと思います。

次に、旧m a y ! m a y ! の件です。

県のビクターセンターに対する基本構想・計画は終わっていると思いますが、老人福祉センターを取り壊すということの経緯により、実施計画がおくれているというところまでは聞いております。今、どういう県の現状があって、いつごろまでに実施計画がつけられようとしているのか、その辺の経緯を伺いたいと思います。

その上に立って、実施計画が伸びたということは、逆に言うと変更の余地があると思うんですね。今、全国的にも、やっぱり使えるものは使うというのが普通になってきていると思います。せつかく6年前に2,000万円もかけてきれいにしたわけですし、この間ちょっと入らせて

もらったら本当にきれいなままでありますので、私はいろんなものに使えるんじゃないかという思いがあるのと、もう一つは、新しくビジターセンターの中に何かお店をつくる計画があるのかどうか、伺いたいと思います。

それから、旧働く婦人の家のトイレについてですけれども、それまでm a y ! m a y !で少しやってみえた憩いの郷あんという、いわゆるお年寄りの方を集っていただいてコーヒーを出すという福祉的な、今は全国的には認知症カフェという名前でいろいろ取り組まれている、そういう一連の中での取り組みが行われておりますが、婦人の家に移られて、週に1回ですけれども、お年寄りの方が結構参加されてみえます。

私も時々使わせてもらうんですが、やっぱり足の痛い方がもう何とかしてよというふうに訴えられております。利用状況も多いと思いますので、ぜひともつくっていただきたいと思いますが、もう一度伺いたいと思います。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） それではお答えさせていただきますが、m a y ! m a y !の跡の利用につきましてもは地域振興課長からお答えをさせていただきます。

病院につきましてもは先ほども申し上げたとおりでございます。診療所化を進める中で今までの専門の職員がいなくなるという状況でございますので、その中でいかに患者様に対する相談業務ができるかということで、残った職員の中でできるだけことはやらせていただきたい。ただ、それだけではとても無理ですので、先ほども言いましたように、やすらぎのほうの諸機関と連携をして進めていくということが必要であるということでございます。

そういったことで、福祉部門のほうからもドクターへのかけ合い等々もやっていかなければならないというふうに思っているところでございまして、患者の皆さん方には今までよりは多少御不便をおかけすることになろうかと思いますが、できるだけ丁寧に連携を図っていきたいというふうに思って、今そういう調整につきましてもいろいろと検討しているところでございます。そういった意味で、御理解をいただきたいと思っております。

また、相談室の設置につきましても、私は以前に設置したということで、担当の方ともお話をさせていただいたこともございます。ただ、具体的に個々の方がどうしたいとか、そこまではタッチしておりませんが、本当に親切にやっていただいておりますし、またいろんな機関との連携、こういったこともやっていただいているということで認識はいたしております。

そういった意味で、必要であろうというのは十分認識するところでございますが、病床数がこれだけ減った中で、また経営的にも改革をしなければいけないという中でございますので、その点は皆さん方に御理解を賜りたいというふうに思っているところでございます。

それから、旧働く婦人の家のトイレの件でございますが、やはりトイレにつきましても、先

ほど来申し上げているように、教育関係施設、また町内のほかの施設においても洋式化が進んでいない、これからもやらなければいけないという位置づけでございまして、今年度もそういった意味で予算の検討をさせていただいておりますが、非常に厳しい状況の中でありまして、優先順位というものも考えながらやっていかないかんということでございまして、来年度につきましては、とりあえず今は計画していないということでございまして御理解いただきたいと思っております。

○議長（澤居久文君） 高木地域振興課長。

○地域振興課長（高木久之郎君） 今、県におけるビジターセンター関連の進捗ぐあいですが、3月に基本構想を策定させていただきまして、その後、6月に町として、耐震上の問題もありますので、老人福祉センターを取り壊すというような状況になりました。その後、再度どういった展示ができるのか、どういった見せ方ができるのかということを検討いたしておる段階ではございますが、今現在は基本設計を進めている段階でございます。

その中で、いま一度諸室の配置であるとか、どういったものを展示していくのであるとかということ、3月に策定した基本構想をもとにもう一度しっかりと考えておられるというところでございます。

また、ショップ等の配置についても、その中で今協議をしているところでございます。

○議長（澤居久文君） 再々質問を許します。

〔5番議員挙手〕

5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 医療福祉相談室の件ですが、町長の認識を言われました。私は、その認識というのが表面的というか、お話を聞いていて、表面的にしかなかなか認識されていないのかなあというふうな印象を受けました。

医療と介護の連携というのは、例えば週に1回の会議とか月に1回の会議とか、そういうところで協議することもあるでしょうけれども、やっぱり現場現場で、その都度その都度判断していかなければならない問題だと思っています。患者さんの命や健康にかかわる問題なので、そういう意味では、本当に今、現場ですぐの判断をしていただいていると思います。

それで、今後、地域包括ケアシステムの中で地域医療・介護連携事業を進めていかないかんわけですが、その中で8つの細かい事業をやっていかないかんのですね。その中に、いわゆるプロで仕事してみえる方の相談や連携、最初に再質問で述べましたけど、そういうところの連携をやる人、コーディネートをやる人、相談を受ける人、そういう相談員を置かなくてはならないというふうに私は理解をしているんですが、そこに私は今の相談員の方を配置すれば、今のネットワークを切らさずにどんどん地域医療・地域介護を進めていけるのではないかと、いうふうに思うわけですが、その辺はどのように進めようとしてされているのか伺いたいのと、やっ

ぱり病院がこうなった中で、もちろん診療所でその人材を置いておくというのは、財政的には、経営的には難しいというのはよくわかりますので、関ヶ原町としてどう地域包括を進めていくのかという観点で考えたときに、やっぱりその人材というのは本当に必要だというふうに思います。

これからやっていきなさいよと国が法律上言っているわけですから、今後進めていく上で、どうしてもその人材を確保しないかんと思うんですね。せっかく今ある人材をそのまま確保していけば、この事業はスムーズに進んでいくんじゃないかと思いますので、その辺の見解を伺いたいと思います。

それから空き病棟についてですが、北棟は社協と今協議をしてみえるということですが、南病棟については、このままいくと本当に廃屋になってイメージも悪いと思うんです。町長も何らかの利用ができればいいなという思いはあると思いますけれども、思っているだけではいけないので、今、厚生労働省が療養病床を廃止するかわりに新たな基準を設けて、療養病床にかわる施設を提案しているところです。ですから、その辺も研究をしていただいて、関ヶ原町としてはできなくても、公募するなり、そういう関係機関に働きかけるなりして、やはり利活用を積極的に進めていただきたいと思いますので、その辺をお伺いします。

それから旧m a y ! m a y !ですけれども、この旧m a y ! m a y !があってもどうしても障害になるということが何かあるんでしょうか、その辺を伺いたいと思います。

私は、活用の仕方としては、ビジターセンターの中に何らかの食べ物のお店が来るかもしれないけれども、町民が旧m a y ! m a y !で取り組む場に活用できるのではないかというふうに思ったりもしますので、県が再検討中ということであれば十分間に合うと思いますので、私はぜひ、もったいないので、やっぱりこの厳しい財政状況の折、活用していくというのは非常に大事なことだと思いますので、その辺を伺いたいと思います。

洋式トイレについては、私も、個人的なことですが、手首を骨折した際にはもう本当に大変不便な思いをしましたが、日ごろからやっぱり足の弱い方というのは、本当に毎回毎回、毎日毎日、ずうっと不便な思いをされてみえると思っております。ぜひ、そんなに多額の予算が必要ではないと思いますので、早急な検討をお願いしたいと思います。

以上、お願いいたします。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） それでは、医療福祉相談室のほうでございますが、確かに今までのベッド数があつた段階では非常に多くの患者さんが退院、またその後の治療等について検討する必要があつたということで配置をさせていただいておりましたけれども、診療所という形になったときに、早期に退院が前提の施設となりますので、一般入院という形になりますので、今ま

でよりもそんなに数が必要ではないということから今回はもう見送りさせていただいて、残った看護職員と、それからやすらぎの施設、諸機関との連携の中で対応をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。今後においても、そういった意味での地域包括ケアシステムの構築というものを、両方で連携しながら図っていきたいというふうに考えているということで先ほどもお答えしたところでございますので、御理解いただきたいと思います。

国の方針ということでございますが、そういった中では、やはり連携する中で人材も育成していくという必要があるのではないかとこのように思っております。

それから南病棟の一般病床等の利用でございますが、実を言いますと、既にもう働きかけをした一件がございますが、人が集まらんという形の中で見送りたいというような返事もございまして、まだまだほかの、療養施設という形じゃなしに、利用ができるところがあるんだったら提供するというのもやぶさかではないという思いでおりますので、また御提案をいただければというふうに思っております。

それからm a y ! m a y !のほうの跡地利用の関係でございますが、先ほども地域振興課長が申しあげましたけれども、今、県の基本構想の中では、あそこのm a y ! m a y !の敷地のところまでも新しいビジターセンターの施設が来るという構想でございますので、そういった意味で無理だというふうに思っております。

それからトイレにつきましては、御指摘の件は十分理解をさせていただいておりますが、順次整備ということで御理解をいただきたいと思います。

○議長（澤居久文君） これで、5番 田中由紀子君の一般質問を終わります。

続きまして、8番 楠達男君。

〔8番 楠達男君 一般質問〕

○8番（楠 達男君） 8番 楠でございます。

通告に基づきまして、私は2点について質問をさせていただきます。

その一つは、2期目に臨む西脇町長の所信と決意を問う。2点目、関ヶ原病院の診療所化に伴う町民への状況説明と開設者の責任について伺いをいたします。

1点目の関係であります。西脇町長はみずからの公約として、1つ、病院改革、2つ、ランドデザイン事業の推進と誘客、3点目、工場誘致による雇用と町財政の確立、4点目、人口対策、5点目、災害対策を中心に掲げられてきました。

関ヶ原町は、他の自治体に比しても、少子・高齢化、人口対策、町財政、税収対策等、いずれも待ったなしの状況です。

そこで、町長に伺います。

関ヶ原町の課題に対する町長の認識を改めて伺いたいと思います。

2点目、公約実現のための取り組みを具体的にどのように進めていかれるのか、行程表も必

要と思いますが、いかがでしょうか。

3点目、町長の強力なリーダーシップとともに、役場の組織の改編・強化が必要と考えます。例えば、戦略課題、政策の立案、実施スケジュールを作成し、スピード感を持った実効性のある行政運営を行うため、町長直属の部局の設置を検討してはどうか。例えば、総合戦略局として専属職員数名で構成する新たな組織を配置し、必要な権限と責任を付与するとともに、施策の企画・立案、実施計画を策定し、それを全職員が共有し、業務を遂行することが必要と考えますが、町長の見解を伺います。

大きな2点目、関ヶ原病院の診療所化に伴う町民への状況説明と開設者としての責任について伺います。

その一つが、平成29年4月からの関ヶ原診療所移行に伴う町民への周知方法、例えばQアンドAの全戸配付など、また町民説明会開催の考えについて伺います。

2点目、診療所移行のために、現場では身を切る改革を行っています。徹底した経費削減に加え、心ならずも整理退職に応じた看護師、薬剤師の方たち、職員の方、そして患者や家族の思い、こうした町民の悩み、不安にどのように応えるのか。開設者として町長はどのように考えておられるのか伺います。以上です。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） それでは、お答えをさせていただきます。

関ヶ原町の課題につきましては、さきの答弁でも申し上げたとおりでございますけれども、高齢化と人口減少が進んでおり、財政的に非常に厳しい状況であるため、金をかけずに課題をいかに解決していくかということについては本当に難しい問題であるというふうに思っているところでございまして、その中で努力をさせていただく必要があるというふうに思っております。

2番目の行程表につきましては、先ほどの1番議員への答弁でもお答えいたしましたように、来年度に総合計画を策定することにいたしておりまして、その中で検討していくことになると思っております。

3つ目の組織の改編・強化についても、先ほど9番議員の質問で答弁させていただいたところでございますけれども、御提案のありました専属職員で構成する直属の部局設置につきましては私も理想的だと思いますが、内部組織の再編に当たりましては、限られた職員数の中で全体が円滑に機能することも含めて検討していきたいというふうに考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

次に、病院の診療所化に伴った質問でございます。

4月からの診療所の業務内容につきましては、住民の方へ説明会を行うことで検討しており

まして、できるだけ早く行えるように調整を行っているところでございます。診療所で何ができて何ができないかについては、具体的に院長から説明をしていただく予定であります。

もっと説明が聞きたいという住民の方がお見えになりましたら、病院内で説明会を別途開くなどして対応していきたいというふうに考えております。その中で質疑等を行った内容をまとめたものをQアンドAとして、全戸配付できればと考えているところでございます。

開設者としての責任ということでございますけれども、関ヶ原病院の赤字経営の長期化や町の財政状況から病院体制での継続が困難となり、診療所ということにすることによりまして、職員の皆様には整理退職という形で退職をお願いすることになりましたことは非常に申しわけなく思っております。

診療所化に向けての条例を議会で議決いただき、また先般、整理退職者への通知を出させていただきました。この際に、一定期間の減給という形で町長としての責任をとらせていただきたいと思いますと考えておりまして、きょう議案を提出させていただいたところでございますので、御理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（澤居久文君） 再質問を許します。

〔8番議員挙手〕

8番 楠達男君。

○8番（楠 達男君） 再質問の前にあえて私は申し上げたいと思いますが、きょう、この議会に多くの町民の方が傍聴に見えられておりますよね。そして、きょう、議員の中で3名、その意味では同じような質問をさせていただきました。それほど皆さんは、議員もそう、町民の方もそうですけれども、この町に対する危機感があるわけですよ。将来の危機感じゃなくて、今どうするのかという思いがあって、多くの傍聴の方、そして同じような質問をあえてせざるを得なかったということでもあります。

それに対する先ほどの町長答弁を聞いていますと、現状認識はそんなにずれていないと思えますけれども、これからどのようにこの町を立て直していくのか、そのリーダーとして、町長は思いは語られましたけれども、具体的な方策が私にはそれほど通じてはきませんでした。

揚げ足をとるわけではありませんけれども、先ほどの町長答弁の中に、災害に関して、幸い関ヶ原町は岩盤が強いところに建っておるから、公共施設でいろいろ問題はあるけれども、様子を見るというような答弁をされました。これが町長の答弁ですか。

熊本地震、鳥取地震、さかのぼれば阪神・淡路、東北地震、その状況は、誰しもが後で言っておられましたけれども、まさかうちに起こるとは思わなかった、このまちは岩盤がかたいから住宅を建てたと、しかしこうなったということなんですよ。まさに災害はいつどこで起こるかわかりませんよ。

関ヶ原は岩盤が強いから地震が来ないという保障を、町長はできますか。だからこそ災害対

策は、今、本当に全国的に喫緊の課題で最重要課題の一つになっているわけでしょう。にもかかわらず、町長のあの答弁は私はいかがなものかと思えますよ。ぜひ認識を改めていただきたい。それが単に災害問題だけじゃなくて、これからの関ヶ原町のまちおこし、まちづくり、活性化について、非常にスピード感がないと言われる一つの根拠になっているんじゃないですか。

具体的に再質問させていただきます。

重複するところは避けます。ただ一つ、グランドデザイン事業について、あえて質問をさせていただきます。

中心になる施設としてビジターセンター、あるいは各史跡の整備がありますが、これが目的ではないということです、大事なことは。ビジターセンターをつくれればいい、どこどこに案内看板をつくれればいい、これが目的じゃないですよ、目的なんですか。

いかに全国から、あるいは世界からお客様を関ヶ原町に呼び込んで、そして俗っぽい言い方かもしれませんが、お金を使っていただく。そして、関ヶ原町の民間の業者の方、企業の方に潤っていただく。そのことによって、町の税収、財政を豊かにする。これが目的ではないんですか。釈迦に説法かもしれませんが、もう一度そのことについて認識をはっきりさせたいと思います。

そのためには受け皿づくりが必要です、地元の。どういう仕組みをつくったら、どういう仕掛けをつくったらお客さんに喜んでいただけるのか、リピーターが来るのか。そういうことの知恵を絞るのが一つ大きな仕事です。

また、先ほどからもいろいろ質問がありましたグランドデザイン事業は、行政主導となっています。ある意味では当然であります。しかし、みずから発意し、行動している住民も多くおられます。例えば、玉や笹尾の方では地元産のソバを使ったそば打ち販売をされていますし、今須ではやはり地元産のコンニャクや野菜販売をされて、非常に好評のようであります。

また、最近では松尾の畳屋の方が畳のへりを使って合戦グッズをつくって、私もこれを1つ買いましたけれども、非常にここにしかないお土産ですよ。そういう形で、あるいは史跡環境整備のための古戦場保存会の発足、それから旧働く婦人の家でのカフェなど、地道なボランティア活動が各地で続けられております。

このように、まちおこしの芽が、着実ではありますけれども出てきています。これはグランドデザイン事業の大きな成果の一つだと私は思っています。さらに住民との協働事業とするため、町民の関心と参加を呼びかけるべきであります。

また、この際、関ヶ原町活性化事業の核として、とりわけ若い世代を対象に、例えば、名称は別ですけども、まちおこし住民協議会というようなものを立ち上げてはどうかと思えます。これからのまちおこし、これからの関ヶ原町は、若い世代のセンス、行動力、発想力、これをどうまちづくりに生かすかということが課題であります。

ともすれば、いろんな委員会、協議会、審議会がありますけれども、言い方がきついかもかもしれませんけれども、充て職の方も多くありますし、同じようなメンバー、どこに行っても。また、伺っているのは、いろんなところで委員会で住民として発言しても、なかなかそれを取り上げていただけない、その議論結果すら伝わってこない、もう委員会に行くのは嫌だということも見えるんですよ。やっぱりそこら辺の点検なり反省なり、引き継ぐことは引き継ぐ。特に、私はあえて言うんですけれども、若い人たち、とりわけ20代、30代、あるいは若い女性の方の行動力・発想力について、ぜひ生かしていただきたいと思います。

それから、ランドデザイン事業に関係することで言えば、関ヶ原観光のネックの一つに冬季対策、これから冬場の観光客対策というのが非常に以前から課題になっております。

したがって、私は、一つの提案でありますけれども、この町の将来の観光を考えたときに、関ヶ原合戦だとか史跡めぐりだけでは、特に冬季の場合は限界が来ているわけですよ。例えば、駅前の観光交流館も、私も時々行きますけれども、平日はほとんどと言っていいほど閑散としております。職員に聞いても、やはり1日に10人前後しか来ないという日も多くあると。やはりここが限界だと思うんですね。関ヶ原のそういう基本的な風土の中で、史跡観光だけに頼るといふことの難しさ、限界。だとすれば、新たな観光資源の発掘・開発が必要ではないでしょうか。

合戦地に新たなる付加価値をつけた観光対策、歴史ファンだけではなくて、家族連れ、女性の方にも楽しんでいただける視点からの観光対策の検討もぜひ必要であります。そのためには、コンサルタント会社の活用だとか、あるいはせつかく観光協会が立ち上がったわけですから、観光協会、あるいは商工会、そして広く町民の方からの意見やアイデアを募集してはいかがでしょうか。冬季観光対策に対する町長の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

恐らく答弁は、財源がない、人材がなかなかいない、組織づくりが難しいという答弁があるかもしれませんが、確かにそうなんです。今言ったからといって、来年にすぐできるとは思っていません。5年、10年スパンでかかる事業もあるでしょう。だからこそ、今、行程表の作成も含めて、スケジュールをつくりながらですが、着実に進めることが求められていると思います。

これも厳しい言い方をしますけれども、町長1期目の4年は、一般的に言えば、1期目だからやむを得ないとか、町民の方もある意味ではそういう目で見ただけのかもしれませんが。2期目はそうはいきませんよ。ある意味では、町長に対する期待も大きいわけですからね。ぜひそのことを心して、これからの行政運営に当たっていただきたいと思います。

それから、病院の診療所化に伴う町民説明会と町長の責任であります。

これも、説明会はやる用意はあるけれども、今は検討しているという答弁でありましたけれども、来年4月から移行するわけですよ。当初の説明会では12月に2回目をやるという話じゃ

なかったですか。確かに準備の段階で、いろんな条例改正の問題、はっきりしていない部分がありますから、多少のタイムラグはやむを得ないですよ。しかし、ここへ来れば、12月中には無理なら1月中にはやりますと。しかも、これは大事な問題ですから、やはりQアンドAはきちっと作成をして、説明会に来られなかった町民の方も含めて全戸配付をする。その時期は1月中にやりますというようなスケジュールを示さないと、またずるずるといく可能性もあるわけですから、この辺についてももう少し明確な答弁をお願いしたいと思います。

この診療所化に伴っては、町民の方の不安が本当に大きいと思います。性急過ぎる、早過ぎる、もっと時間をかけて議論をすべきだ、町民の声をもっと聞け、そんな声もあります。当然であります。

しかし、私は、改革をこれ以上おくらせることは、そのツケを次の世代に回すことになる、病院機能を残すための後のない改革であり、苦渋の選択だと私は認識しております。しかし、町民の不安や疑問には丁寧に答え、理解を求める努力をしなければいけないと思います。

もう一度言います。とりわけ、心ならずも早期退職を余儀なくされた職員の方、医師、看護師の方の悩み、痛みを、我々議会も含めて感じなければいけないと思っております。町長は先ほどの答弁で、みずからの賃金カット条例を後で提案されるそうでありますけれども、このことについて、その基準となった根拠、事由について再度お伺いして再質問を終わりたいと思います。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） 先ほど関ヶ原町の公共施設の改修の関係につきまして、岩盤が強いと申し上げましたけれども、そのことについては、岩盤が強いから大丈夫じゃなしに、岩盤が強いところに頼っているという意味でございますので、その点、私も大丈夫だという意味ではございませんので、そこら辺で捉え方がちょっと違ったというふうに思いますが、そういった意味で、何とかそういうことで持ちこたえることができないかという期待をしているということでございます。

グランドデザイン事業関連で再質問をいただきましたけれども、ビジターセンターを建築する、また各地の史跡を今整備させていただいておりますけれども、御指摘のように、それが目的というんじゃなしに、やっぱりそれを起点として多くの方に来ていただいて観光していただき、その上で土産物を買う、また食べ物を食べていただく、そういうことでお金を落とさせていただき、それが町内の活性化につながっていく一助になろうということで、この事業を進めさせていただいております。

その点につきましては、議員の御指摘と同じようなことかというふうに思っておりますけれども、やはり町がどんな形であれ活気づくということは、相乗効果が出てくるという意味で、

私は必要なことであろうというふうに思っております。

その中で、町がいろんな事業をやって、町である期間をやって、それがある程度行ったらおしまいというのではなしに、やはり住民の方、民間の力をそれなりに出していただく。それで、みずから町に活気を生み出すと、そういったことがどうしても必要だというふうに思っております。そういったことを羽立てていただける方には、町から逆にバックアップをさせていただくという形でこの事業を進めるというのが理想的ではないかというふうに思っているところでございます。

そういった意味で、先ほどもお話がありましたけれども、町内でそば屋を始めていただくとか、新たな土産物を開発していただくとか、そういった動きが、以前はなかったものが今は出てきたということは、非常に好ましい状況であるということを思っております。

しかしながら、まだまだ十分ではないということで、今年度も土産品の開発、こういった事業にも取り組みをさせていただきながら働きかけをしているところでございます。どうか皆さん方の力を、個々の生活もでございます、そういったことが成り立つような、そんな事業展開をしていただければというふうに思っておりますので、今後もそういう動きがあったときには支援をしていきたいというふうに思っております。

それから、リピーターの方に来ていただくということにつきましては、本当に合戦の史跡だけということで、マニアの方は本当にリピーターとなって何回も何回も来ていただいておりますけれども、一般の客の方については、1回来たら関ヶ原はこんなところかということで、2回目はなかなか来てもらえないという状況でございますので、新たな視点となるもの、発信できるものがないかということでの思いはございます。ただ、それが具体的にどうすればいいのかということについては、本当に難しい問題であろうというふうに思っております。皆さん方のお知恵をおかりしたいというふうに思っているところでございます。

そういった中で、今、町民の方からの御意見を聞いたらどうだと、いわゆる一般にまちおこしの人材として、よそ者、若者、ばか者と言われます。そういった一生懸命になっている方、こういった方がおればいいんですけれども、そういった人の発掘、こういったものも必要になっていくのではないかとこのように思っておりますし、住民の方がいろいろな観点からこういったまちおこしにつながる事業に参画していただければ、非常に力強いものになるというふうに思っております。

そういった意味で、今御提案いただきました、例えばまちおこし住民協議会というような組織というものは、前もワークショップというのを個別のテーマでやったことがございますけれども、やっていくということもいいのではないかとこのように思っております。それにつきましては今後、今提案をいただいたところでございますので、内容等について検討を進めさせていただきたいと思っております。若い人がいろんな発想を持っているということは非常に大事

なことであると思いますので、そういった意見を取り込み、やれることをやっていくということにつなげていければいいなあとというふうに思っております。

それから、冬季対策でございます。確かに今、関ヶ原町におきましては合戦の町ということで、壬申の乱、関ヶ原の戦いということでの位置づけがメインでございまして、そのほかの部分については非常に弱い部分がございます。観光だけじゃなしに、いろんな面で関ヶ原にもっともって来ていただける、交流していただけるというまちづくりにはどうしたらいいのかということについて、また議員の皆さん方の御提案、また町民の方からの御提案もいただきたいというふうに思っております。そういった意味でございます。

それから、観光資源の開発に携わるものとして、今、コンサルであるとか観光協会、また町民の方というような御意見もございました。確かに役場の中だけで考えるのではなしに、発想の違う観点からやるということは必要なことであろうというふうに思っておりますので、今後そういう意味で拡大しながら、どうしたら今以上に活気が加速化していくかということを考えていきたいと思っております。

それから、病院のほうの説明会につきましては、事務長のほうから今のところのスケジュール案というものを答えていただきます。

それから、私の給与のカットということでございますが、これはいろいろ前々からどうするべきかということを考えていたところでございまして、タイミングとしては、やっぱり議会のほうで初日に病院の条例を可決していただいたと。そして、その後すぐに職員の方の整理退職の通知をさせていただいたと。このタイミングでやらせていただくというのがいいんじゃないかということで決断をさせていただきました。

期間につきましては6カ月というようなスパンで考えさせていただいたというところがございますので、その点はいろんな考え方があろうかと思えますけれども、私なりの判断ということで提案をさせていただいたところでございますのでよろしくお願いいたしたいと思えます。

○議長（澤居久文君） 小林病院事務局長。

○病院事務局長（小林好一君） 失礼します。

現段階で、町民の説明会を大体1月の終わりごろにできたらいいかなあとというふうにとりあえず考えてはおります。以上です。

○議長（澤居久文君） 再々質問を許します。

〔8番議員挙手〕

8番 楠達男君。

○8番（楠 達男君） じゃあ、再々質問をさせていただきます、1点だけ。

先ほど提案をいたしました、名称はともかく町長直属の町の活性化を目指した部局の設置についてであります。

先ほどの9番議員の川瀬議員からも同じような質問がありまして、一定、町長の答弁としては前向きに検討するということでもありますけれども、やはり早急に具体的に、先ほどの答弁では人がいないとかいろんなことを言われまして、これはいつできるのかなあと、また例によつてずるずるいくんかなあという危機感もないわけじゃありませんので、やはり明確にいつまでにつくる、その人材についてはやっぱり最優先にすべきでしょう。人がいないこともあるかもしれませんが、関ヶ原町には幸い非常に優秀な職員がたくさんお見えになりますので、そういう方たちをそのスタッフとして、数名でいいと思うんですけれども、それを最優先して、それで残った各課の業務については今まで以上に頑張ってもらおうということで、まずはそういう部局の設置について前向きに検討をしていただきたいということです。

それから、冬季対策を含めて、関ヶ原町の活性化の一つにまちおこし協力隊というのが設置されているようでもありますけれども、これが現在どうなっているのか。そういうまちおこし隊の活用なんかもあるのではないかと思いますけれども、この点に関して答弁をいただきたいと思います。以上です。

○議長（澤居久文君） 答弁を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） 活性化についての課の再編につきましては、今のところ、私としては新年度から動くように再編を考えていきたいというふうに思っております。

その中で、やはり財政的な面をどういうふうな形でみんなが認識しながらやっていけるかということも含めて考えていかなければならないということで、考えていきたいというふうに思っているところでございますので、お願いいたします。

それから、まちおこし協力隊につきましては、今年度検討できないかということを指示させていただきましたけれども、その点につきましては地域振興課長からお答えさせていただきます。

○議長（澤居久文君） 高木地域振興課長。

○地域振興課長（高木久之郎君） 国の制度における地域おこし協力隊のこととしてお答えさせていただきますと、地域が限定されておりまして、過疎地であるとか山村地域という地区が限定されます。当町であれば、今須地区しかその対象地域でないということから、いわゆる古戦場とか一般的な観光にはなかなか使いにくいということから、今、活用はとまっているという段階です。

○議長（澤居久文君） これで8番 楠達男君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。20分まで。

休憩 午前11時12分

再開 午前11時20分

○議長（澤居久文君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第3 議案第102号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第3、議案第102号 関ヶ原町職員の配偶者同行休業に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」の声あり〕

これで討論を終わります。

これより議案第102号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第4 議案第103号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第4、議案第103号 関ヶ原町税条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第103号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第5 議案第104号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第5、議案第104号 関ヶ原町保育所の設置及び管理に関する条例の全部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第104号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第6 議案第105号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第6、議案第105号 関ヶ原町留守家庭児童教室の設置等に関する条例の全部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第105号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第7 議案第106号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第7、議案第106号 関ヶ原町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第106号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第8 議案第107号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第8、議案第107号 関ヶ原町農業委員会の委員等の定数を定める条例の制定についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第107号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第9 議案第108号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第9、議案第108号 関ヶ原町国民健康保険条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔挙手する者あり〕

反対討論から許します。

5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 日程第9、議案第108号 関ヶ原町国民健康保険条例の一部を改正する条例についてということで、私は関ヶ原病院の診療所化に反対する立場から反対をいたします。

○議長（澤居久文君） 次に、賛成討論を許します。ありますか。

〔「なし」の声あり〕

これで討論を終わります。

これより議案第108号を採決いたします。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決するに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

賛成多数です。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第10 議案第109号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第10、議案第109号 関ヶ原町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより議案第109号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第11 議案第110号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第11、議案第110号 国保関ヶ原診療所事業の設置等に関する条例の制定についてを議題とします。

これより討論を行います。

[挙手する者あり]

反対討論から許します。

5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 議案第110号 国保関ヶ原診療所事業の設置等に関する条例の制定について、反対の立場で討論をさせていただきます。

何度も言うようですが、平成25年度自治体病院純医業収支ランキングによりますと、764病院あるうち黒字病院はたったの44病院、95%が赤字となっています。その多くは自治体が赤字を負担し、地域の医療を守っています。

関ヶ原病院は、昭和25年から66年間、住民から頼りにされる町の病院として親しまれてきましたが、ことし5月に幾つかの改革パターンが示されて以降、町長が方針を表明したのが8月ですから、実に4カ月足らずで結論を出したことになります。その議論の内容も、財政が中心で、地域医療をどうするかという話はほとんどされず、こんな大事なことをこんなふうに決めてしまっているのかと思います。

病院と診療所は大きな違いがあり、特に入院についての診療報酬は半分ぐらいになります。今でも2カ月しか入院できない中、診療所になればさらに短くなります。障害者病棟も県には数カ所しかなく、閉鎖によって患者の行き場に苦労しているとの報告がありました。障害者病棟は県の中でも重要な役割を果たしていたのだと改めて感じています。

また、これからどういう医療をやっていくかという展望も示されていません。

診療所になれば、他の医療機関と競合し、患者のとり合いになることが予想されます。地域の民間診療所は地域に根づき、昔からドクターとも顔見知りで、いつでも何でも診てあげるといふ対応が魅力です。そうした民間と競争していくことになります。関ヶ原病院の規模が変わっても中身が変わらなければ、赤字は現状と変わらないか、さらに負担がふえる可能性もあります。もっと議論が必要だと思います。

町民にも、19床の診療所にするということだけで、詳しい説明はされていません。そもそも診療所化が先にありきで、具体的内容を決めながら進めるというやり方は町民の不安材料ともなっていると思います。やはり決定過程が拙速過ぎるのではないのでしょうか。

以上の理由から、反対といたします。

○議長（澤居久文君） 次に、原案賛成者の発言を許します。

[挙手する者あり]

3番 子安健司君。

○3番（子安健司君） 私は、議案第110号 国保関ヶ原診療所事業の設置等に関する条例の制定について、賛成の立場で討論をさせていただきます。

今回の条例の制定は、これまで全員協議会、病院改革特別委員会により、議会としても病院存続のため、幾多の議論を重ねてきました。しかしながら、町の厳しい財政状況下において、財政の再建と継続した医療の提供を考えれば、有床診療所化とするのはいたし方ないことであり、病院改革は急務であります。よって、私は議案第110号 国保関ヶ原診療所事業の設置等に関する条例の制定について賛成するものでございます。

ただいま申し上げました趣旨を御理解いただき、御賛同を賜りますようお願い申し上げ、賛成討論とさせていただきます。

○議長（澤居久文君） ほかに。

〔挙手する者なし〕

これで討論を終わります。

これより議案第110号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第12 議案第111号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第12、議案第111号 国保関ヶ原診療所使用料及び手数料徴収条例の制定についてを議題とします。

これより討論を行います。

〔挙手する者あり〕

反対討論から許します。5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 議案第111号 国保関ヶ原診療所使用料及び手数料徴収条例の制定について、私は、関ヶ原病院の診療所化に反対する立場から、この議案に対して反対といたします。

○議長（澤居久文君） 次に、原案に賛成の発言を許します。ありますか。

〔「なし」の声あり〕

これで討論を終わります。

これより議案第111号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

賛成多数です。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第13 議案第112号について（討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第13、議案第112号 国保関ヶ原診療所事業奨学金貸与条例の制定についてを議題とします。

これより討論を行います。

[挙手する者あり]

反対討論から許します。

田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） 議案第112号 国保関ヶ原診療所事業奨学金貸与条例の制定について、私は、関ヶ原病院の診療所化に反対する立場から、この条例には反対をいたします。

○議長（澤居久文君） 次に、賛成討論はありますか。

[「なし」の声あり]

これで討論を終わります。

これより議案第112号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

起立多数です。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第14 議案第113号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第14、議案第113号 関ヶ原町常勤の特別職職員の給与に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） 議案第113号について御説明申し上げます。

今回の病院改革に伴い、関ヶ原病院を診療所化へ移行し、町民のための医療を継続する決断をいたしました。

この改革に伴い、多くの患者様並びに病院職員に御迷惑をおかけすることになったことに対し、開設者としての責任を痛感しているところであり、私の給料月額に対しまして、来年1月から6カ月の間において100分の10に相当する額を減ずる一部改正を行うものでございます。御審議を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、細部につきましては省略をさせていただきます。

○議長（澤居久文君） これより質疑を行います。ありますか。

[挙手する者あり]

8番 楠達男君。

○8番(楠 達男君) 8番 楠であります。

1点だけ質問をさせていただきます。

6カ月、10分の1減給ということ、その姿勢について私は評価をさせていただきますが、あえて6カ月、100分の10とされる理由、根拠について1点伺います。

○議長(澤居久文君) 西脇町長。

○町長(西脇康世君) 根拠として明示するものはございませんが、現在、私、また議員の皆様においては、以前の給料に対しまして18%のカットをずうっとやっております。そういったことも踏まえて、今回の病院の改革に伴う自分なりの責任のとり方として、自分なりの判断ということでこの数字を決めさせていただいたということで、明確な基準がどこにあるかというものはございませんが、やはりよその市町の首長さんの減給の基準、こういったものを数カ所参考にさせていただいて、自分なりにこの程度でお願いしたいという判断をさせていただいたところでございます。

○議長(澤居久文君) ほかに。

[挙手する者なし]

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。ありますか。

[「なし」の声あり]

討論なしと認めます。

これより議案第113号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第15 議案第114号について(提案説明・質疑・討論・採決)

○議長(澤居久文君) 日程第15、議案第114号 関ヶ原町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

西脇町長。

○町長(西脇康世君) 議案第114号について御説明申し上げます。

地方公務員の育児休業等に関する法律及び育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴い、所要の改正を行うものであります。

なお、細部につきましては総務課長より説明をいたさせます。

○議長（澤居久文君） 澤頭総務課長。

○総務課長（澤頭義幸君） 失礼をいたします。

議案第114号について御説明を申し上げます。

今回の改正の概要でございますが、育児休業等に関する子の範囲の見直し、また介護休暇の分割、介護時間の新設というようなことになっております。

お手元の議案資料その2の2ページをお願いいたします。

第3条第4項第1号におきまして、育児休業等の対象となる子の範囲に、特別養子縁組の監護期間中の子及び養子縁組里親に委託されている子などを追加させていただくものでございます。

議案資料3ページにおきましては、第8条の4第4項で介護をする職員についても準用する読みかえ規定でございます。

資料の4ページの第11条におきましては介護時間を追加し、第16条第1項では介護休暇を請求できる期間を3回まで分割が可能とするものでございます。

次に、16条の2におきましては、介護のために勤務しないことが相当であると認められる場合、連続する3年の期間内に1日につき2時間以下勤務しないことを承認できる制度を新設してございます。

なお、施行日につきましては、平成29年1月1日の施行とさせていただきます。

御審議賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（澤居久文君） これより質疑を行います。

〔「なし」の声あり〕

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより議案第114号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第16 議案第115号について（提案説明・質疑・討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第16、議案第115号 関ヶ原町職員の育児休業等に関する条例の一

部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

西脇町長。

○町長（西脇康世君） 議案第115号について御説明申し上げます。

こちらが議案第114号と同様で、地方公務員の育児休業等に関する法律及び育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴い、所要の改正を行うものでございます。

なお、細部につきましては総務課長より説明をいたさせます。

○議長（澤居久文君） 澤頭総務課長。

○総務課長（澤頭義幸君） 失礼をいたします。

議案第115号について御説明を申し上げます。

改正の概要につきましては、先ほどの議案第114号と同様の法律の改正によります育児休業等に関する子の範囲の見直しと介護時間の新設に伴います条例の整備でございます。

議案資料のその2の6ページをお願いいたします。

第2条は、非常勤職員の育児休業に係る要件を緩和する改正でございます。

第2条の2では、育児休業等に係る子の範囲拡大により、条例で定めるものを規定したものでございます。

資料の7ページから8ページの第3条及び第11条につきましては、育児休業等の対象となる範囲の拡大により区分を整理いたしましたものでございます。

次に、9ページの第19条、部分休業の承認でございますが、第2項で新設された介護時間について追加をさせていただき、育児時間と同日取得の場合であっても2時間を超えない範囲とするものでございます。

第3項におきましては、非常勤職員においても同様とする改正内容でございます。

なお、施行日につきましては平成29年1月1日の施行とさせていただいております。

御審議賜りますようよろしくお願いをいたします。

○議長（澤居久文君） これより質疑を行います。

〔「なし」の声あり〕

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。

〔「なし」の声あり〕

討論なしと認めます。

これより議案第115号を採決します。

本案は、原案のとおり決するに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしと認めます。よって、本案は原案のとおり可決されました。

日程第17 請願第2号について（委員長報告・質疑・討論・採決）

○議長（澤居久文君） 日程第17、請願第2号 関ヶ原病院の診療所化に反対し現行88ベッドの存続を求める請願を議題とします。

本請願につきましては、定例会初日に総務民生常任委員会に審査を付託してありましたので、ここで委員長の報告を求めます。

総務民生常任委員会委員長 楠達男君。

○総務民生常任委員会委員長（楠 達男君） それでは、付託をされました件について、総務民生常任委員会の報告をさせていただきます。

開催の期日は、平成28年12月8日午前11時50分より役場委員会室において開催をいたしました。出席委員は、田中委員、澤居委員、川瀬委員、谷口委員、そして私、楠の委員全員の出席でございました。会議事件説明のための出席者はございませんでした。職務のための出席者は吉森事務局長、岡村書記で、傍聴者は染矢君子氏1名でありました。

会議結果の趣旨を申し上げます。

本定例会の1日目に付託されました請願第2号 関ヶ原病院の診療所化に反対し現行88ベッドの存続を求める請願について、慎重審議を行いました。

今回の請願は、病院を有床診療所とする大きな改革によるもので、これまでの間に町から財政シミュレーションの提示がなされているが、実情に乖離するものであり、また広く町民の意見を聞き、理解を得ぬままに進められた拙速な判断であることを踏まえ、町民の命と健康を守る拠点として88床の病院存続を求めるものであります。

しかしながら、この病院改革は、現存の病院形態での継続は非常に厳しく、町に財政的余力がない今、一般財源による補填には限界があり、今後の持続可能な医療提供と町の財政再建を考えると、有床診療所とすることは苦渋の決断であります。

また、これらの決断に至るまで、議会としても幾多の議論を重ね、第6回病院改革特別委員会において19床の有床診療所化に向けて進めることに合意し、現在取り組まれているところであります。

当委員会としては、請願の趣旨を踏まえ、審議を重ねた結果、関ヶ原病院の診療所化に反対し現行88ベッドの存続を求める請願につきましては、反対多数により不採択との結論に達し、午後12時35分に閉会しました。

以上、総務民生常任委員会の報告とさせていただきます。

なお、報告漏れがございましたら、他の出席委員からの補足説明をお願いいたします。以上

であります。

○議長（澤居久文君） ただいまの委員長報告に対し、質疑はありますか。

〔「なし」の声あり〕

これで質疑を終わります。

これより討論を行います。ありますか。

〔挙手する者あり〕

5番 田中由紀子君。

○5番（田中由紀子君） それでは私は、請願第2号 関ヶ原病院の診療所化に反対し現行88ベッドの存続を求める請願について、総務民生常任委員会の不採択の結論について反対の立場で討論を行いたいと思います。

委員会では、財源の問題が指摘されました。88床では、シミュレーションの上でも交付税を含む繰出金は多くなるように見えます。しかし、前回配られました今年度上半期の病院経営状況報告書で見ますと、医業収益で7,700万円の赤字、そのうち7,000万円が減価償却費ですから、実質700万円の赤字となっております。

9月に町から2億5,000万円の繰入補正をいたしましたけれども、これは診療所化に伴う収益減に対応するものとなっております。もちろん経費を相当削減し、切り詰めてのことですけれども、この上半期を見る限り、単年度でのやりくりは、さらなる大幅な財政出動を必要としないものとなっていると思います。

一方で、診療所になれば交付税は大幅に減り、町の負担感は大きく変わらないと思います。

8月28日の町民説明会に参加された元公務員の方は、シミュレーションも何もなく、これで納得しろというのは無理があるとおっしゃっておられましたが、そのとおりだと思います。

まちづくりにとって、何を大事にして何を切り詰めていくのかは町民の選択に委ねるべきであって、町民の中での議論が保障されないこうした進め方は理解が得られないのではないかと思います。

以上の理由で、請願の不採択に反対といたします。

○議長（澤居久文君） ほかにありますか。

〔挙手する者なし〕

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

これより請願第2号を採決します。

本採決は起立によって行います。

この請願に対する委員長の報告は不採択です。この請願を不採択とするに賛成の方の起立を求めます。

[賛成者起立]

起立多数です。よって、本請願は委員長の報告のとおり不採択とすることに決しました。

日程第18 岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙について

○議長（澤居久文君） 日程第18、岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を行います。

この選挙につきましては、現在、関ヶ原町選出の岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員は西脇町長となっておりますが、12月25日に任期満了となりますので選出するものであります。

なお、広域連合規約第8条により、広域連合議会議員は市町村長または副市町村長、もしくは議会議員から選出の監査委員のうちから、市町村の議会において1人を選挙により選出するとなっております。

候補者は、当選されました西脇康世君と監査委員の室義光君であります。

ここでお諮りします。選挙の方法は指名推選とし、指名の方法は議長において指名することといたしますが、御異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることとし、指名の方法は議長において指名することに決しました。

岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員に西脇康世君を指名いたします。

お諮りします。ただいま議長において指名しました者を岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の当選人とすることに御異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

異議なしと認めます。よって、ただいま議長において指名しました者を岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の当選人とすることに決しました。

ただいま岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員に当選されました西脇康世君が議場におられますので、本席から、会議規則第32条第2項の規定により、岐阜県後期高齢者医療広域連合議会議員の当選人である由を告知いたします。

以上で、本会議に付託されました案件の審議は全て終了いたしました。

閉会の宣告

○議長（澤居久文君） これをもちまして平成28年第4回関ヶ原町議会定例会を閉会いたします。

閉会 午前11時48分

以上、会議の次第を記載し、その内容の相違ないことを証するためここに署名する。

平成 年 月 日

関ヶ原町議会議長

会議録署名議員

会議録署名議員